

第101回 卒業式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集人 中野 隆
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

両学部180名が巣立つ 卒業証書番号No.二〇〇八二二号に

日本歯科大学第一〇一回卒業式(学位記授与式)は、三月中旬両学部において挙行し、一八〇名の学士(歯学)を送り出した。あわせて日本歯科大学大学院第四十九回修了式が催され、二十三名に博士(歯学)の学位記が授与された。また、東京短期大学と新潟短期大学の卒業式も挙行された。

第49回大学院修了式を併催

生命歯学部は、三月十二日に生命歯学部富士見ホールにおいて、大学院第四十九回修了式を併催して挙行された。定刻午前十時、司会の鈴木洋一庶務部長が開式を宣した。まずクラス主任の砂田勝久教授より、平成二十三年卒業生



卒業生に告辞を述べる中原学長 (3月12日・東京)



学位記を授与される卒業生代表 (3月16日・新潟)

一一名の氏名が呼びあげられ、倉治竜太郎君が代表して、中原泉学長より、栄えある卒業の証として学士(歯学)の学位記を授与された。ついで各賞の受賞者に対して賞状等が授与された。ついで大学院生命歯学

研究科委員の中原貴教授より、大学院生命歯学研究科博士課程修了生十六名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに、研究成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。ついで中原学長と佐藤田鶴子大学院生命歯学研究科長が告辞(別掲)を述べた。



中原学長から卒業生代表に学位記授与(東京)

は、三月十六日に新潟生命歯学部講堂において大学院第四十九回修了式を併催して挙行された。定刻午前十一時、司会の大場憲栄事務部長が開式を宣した。クラス主任の五十嵐勝教授により、平成二十三年卒業生六十九名の氏名が呼びあげられた。藤井友紀さんが代表して、中原学長より、栄えある卒業の証として学士(歯学)の学位記を授与された。ついで各賞の受賞者に対し賞状等が授与された。

ついで大学院新潟生命歯学研究科長の宮川行男教授より、新潟生命歯学研究科博士課程修了生七

名の氏名が呼びあげられ、一人ひとりに、研究成果を証する博士(歯学)の学位記が授与された。ついで中原学長、小倉英夫新潟生命歯学部長、宮川研究科長が告辞(別掲)を述べた。

ついで在學生を代表して第五学年の吉田哲也君が先輩を送る送辞を述べ、卒業生を代表して藤井友紀さん、大学院修了生を代表して松田貴絵さんが答辞を述べた。

おわりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱した。終わりに祝電が披露され、全員で校歌を斉唱した。

東京短期大学の卒業式は、三月十四日午前十時より生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

まず第三十九回歯科衛生学卒業生七十七名と、第四十三回歯科理工学卒業生三十八名の氏名が呼びあげられ、小口春久学長から栄えある卒業の証として、各学科の代表に短期大学士(歯科衛生学)と短期大学士(歯科理工学)の学位記が授与された。

ついで第三回専攻科歯科衛生学専攻修了生九名と第四十一回専攻科歯科理工学専攻修了生二十名に修了証が授与された。各賞の表彰にあわせて、歯科衛生学卒業生全員に、東京都訪問介護員二級課程と東京都障害者二級課程の修了証明書が授

与された。そして専攻科歯科衛生学専攻修了生に独立行政法人大学評価・学位授与機構より学士(口腔保健学)の学位記が授与された。

ついで小口学長が告辞(別掲)を述べ、来賓祝辞として住友雅人生命歯学部長は、「日本歯科大学には約四十の分科会が所属しているが、歯科衛生学、歯科理工学の方々が入会できる学会がある。そこで新しい情報を得て、どういった仕事に携わってほしいか、将来の方向性が明らかになるだろう。歯科医療従事者の合言葉はチーム医療であり、歯科だけでなく、他の職種の方々とチーム医療であることをよく覚えていた、良かった」と述べた。

羽村章附属病院院長は「昨年の三月十一日に東日本大震災が発生し、私たち歯科医療者も被災地に向かった。現地の歯科衛生士の人も自分が被災したにもかかわらず、歯科医師のために準備を整えてくれ、非常に頭が下がった。非常に頭が下がった。また一万五千人以上の方が亡くなり、身元が識別できなないご遺体が多かった。最終的には歯で確認することになるが、今回は現地の歯科病院が壊滅的な状況になり、口の中のデータは全くなかった。歯科技工士の人たちの仕事のデータが残っていたので、何人も人た

ちを識別することができた。君たちの仕事は患者さんの命を守るだけでなく、そのあとも役立っていることを今一度感じて精進していただきたい」と述べた。

新潟短期大学の卒業式は、三月十五日午前十一時より、新潟生命歯学部講堂で挙行された。まず第二十七回歯科衛生学卒業生五十四名に、柴崎浩一学長から短期大学士(歯科衛生学)の学位記と、各賞の受賞者に対して賞状等が授与された。ついで第十四回専攻科歯科衛生学専攻修了生六名に修了証書が授与された。

ついで日本歯科衛生学会からの表彰状が、新潟県歯科衛生士の三富純子会長(新潟病院歯科衛生士長)より手渡された。

ここで柴崎学長が告辞(別掲)を述べ、小倉英夫新潟生命歯学部長は、「三年前の入学式のと

同区によると、大会は一九三二(昭和六)年、日本歯科大学(現日本歯科大学)の山岳部が、菅平のスキーを始めた。時期は不明だが同区主催となり、雪が少なく中止となつた一九七六年を除き、近年は子供たちが練習成果を披露する場としてこの時期に開き、菅平小中学校は行事として参加している。区民の他、同校卒業生も出場できる」

(信濃毎日新聞)

中原 学長卒業告辞

日本私立歯科大学協会がメディア五十社に行ったアンケートによると、「歯科医学・歯科医療について現在最も関心のあることは何ですか」という質問に対して、

- ①高齢者の口腔ケア
- ②歯周病と全身の健康
- ③再生医療における
- ④口腔外科領域の広がり
- ⑤予防歯科によるアンチエイジング
- ⑥インプラント

⑦欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

- ⑧無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか
- ⑨エンドⅡ歯内治療による根管内の無菌化が重要である
- ⑩オーラルヘルスケア

一方、歯科雑誌『クイーンテックス』の新年特集号で「各治療分野、次の臨床課題は何か」との問いに対して、臨床家十名の方が次のように答えている。



第101回卒業生にエールを送る中原学長（新潟）

①審美歯科Ⅱ学問としての審美はすでに成熟している。これからはリーズナブルな需要の掘り起こしである。

②咬合Ⅱ歯が残っていること、歯を残すことを考えること、つまり残存歯の保全が咬合の課題である。

③欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

④無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか

⑤予防歯科によるアンチエイジング

⑥インプラント

⑦欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

⑧無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか

⑨エンドⅡ歯内治療による根管内の無菌化が重要である

⑩オーラルヘルスケア

①審美歯科Ⅱ学問としての審美はすでに成熟している。これからはリーズナブルな需要の掘り起こしである。

②咬合Ⅱ歯が残っていること、歯を残すことを考えること、つまり残存歯の保全が咬合の課題である。

③欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

④無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか

⑤予防歯科によるアンチエイジング

⑥インプラント

⑦欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

⑧無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか

⑨エンドⅡ歯内治療による根管内の無菌化が重要である

⑩オーラルヘルスケア

①審美歯科Ⅱ学問としての審美はすでに成熟している。これからはリーズナブルな需要の掘り起こしである。

②咬合Ⅱ歯が残っていること、歯を残すことを考えること、つまり残存歯の保全が咬合の課題である。

③欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。

④無歯顎補綴Ⅱ無歯顎はなくなることはないか

⑤予防歯科によるアンチエイジング

⑥インプラント

⑦欠損補綴Ⅱ欠損補綴の治療には欠損歯列の診断が不可欠であり、欠損補綴から欠損歯列への視点が必要である。



好天に恵まれた両学部の卒業式

開式前に記念撮影（上・東京、下・新潟）



卒業生諸君は確立した学問を習得して、実際の歯科医療の中に入っていく。しかし今までの学習は現在までのものでしかない、これからは研究に基づいて歯科医療の方法論、医療システムさえも変わっていく。卒業しても自己学習が求められる。分からないことがあれば母校に連絡してもらいたい。

卒業生諸君は確立した学問を習得して、実際の歯科医療の中に入っていく。しかし今までの学習は現在までのものでしかない、これからは研究に基づいて歯科医療の方法論、医療システムさえも変わっていく。卒業しても自己学習が求められる。分からないことがあれば母校に連絡してもらいたい。

卒業生諸君は確立した学問を習得して、実際の歯科医療の中に入っていく。しかし今までの学習は現在までのものでしかない、これからは研究に基づいて歯科医療の方法論、医療システムさえも変わっていく。卒業しても自己学習が求められる。分からないことがあれば母校に連絡してもらいたい。

小倉英夫 新潟生命歯学部 告辞

自然環境を考えると、昨年の東日本大震災は一つの現れで、地球自体も大きな変化を起している時期にある。こういう時強い心で本学の建学の精神を執行すればかなり対処できると思う。卒業すると、自分自身道を切り開いていくことが要求される。したがって是非とも自主独立の建学の精神を自分で実行してほしい。それができればさらにお互いの助け合いも



これを教訓として平成十六年の中越地震では、本学新潟歯学部を中心に県内の歯科医師、歯科衛生士が組織的に避難所を巡回して口腔ケアと口腔衛生指導を徹底した。その結果、小千谷市における肺炎死亡率、震災前後に二年間の平均が十四・五パーセントであったのに対し、震災の年は十三・三パーセントに減少した。あれだけの震災に問わず震災関連者の中で肺炎死亡率は減ったのである。この数字は口腔ケアが如何に大切であるかを示している。

現在、国際的にも国内にも大きな変貌を遂げようとしている。例えば歯科材料に使われている金は異常な高値をよんでいる。歯科医療にとつては非常に残念なことだが、人間社会の中で大きな変動が起っている。

現在、国際的にも国内にも大きな変貌を遂げようとしている。例えば歯科材料に使われている金は異常な高値をよんでいる。歯科医療にとつては非常に残念なことだが、人間社会の中で大きな変動が起っている。

（3月16日）

大学院研究科長 告辞

生命歯学研究科長
佐藤田鶴子

佐藤田鶴子

昨年卒業式、修了式終了後発生した千年に一度といわれる東日本大震災によって、東京は直接的な被害地ではないにしても、私たちは物理的精神的な苦しみを被災者の方々と共有した。またこの間、わが国の経済はリーマンショックからギリシア危機に至る世界的な経済危機に影響を受けて大変苦しい状況に置かれた。その中でも冷静に自己の研鑽を積み、本日その成果の証として博士号を取得された。

本年度修了されたみなさんの研究は大学院入学の時には恐らく自分自身も予想できなかったレベルの素晴らしい研究成果である。その内容は硬口蓋の分析、歯周病患者の骨再生、疾患のパラメータ分析、口臭の身体組織への影響、矯正学的な骨格の計測、女性のスマイルの分析など生体変化を見る広範囲の研究があり、また一方で歯科矯正治療用金属の改造研究など材料学的な研究があった。これらは将来必ず臨床の場にフィードバックされていくものと確信している。

日本海や太平洋のような海、その海という字と水平線の彼方にある境という字を繋げて「ウナサカ」(海境)という言葉

がある。はるかに広がる水平線の海と空の接する所をウナサカと言う。

実はこのウナサカの空の先にも空が開け海が続く。その先のウナサカが見えるのだ。人生が航海に譬えられるのもそれによく似ている。取り組んできた研究はここで一段落したが、終わりでではない。一つの海を渡ればまた次の世界が広がっていく。これから直接研究に関わっていかなくてもある時、数十年後に自分が行っていた研究が突然に

新潟生命歯学研究科長
宮川行男

これまでの私の自身のことを振り返ってみると、皮剥けて成長したと実感したときが二回ある。一回目は歯科医師国家試験に合格したときであり、大きな安堵感に包まれた。二回目が学位論文の予備審査、本審査に合格し、大学院の修了式において博士の学位記を受領したときだった。そのときには大きな充実感、達成感を味わった。みなさん方も同様の気持ちを感じたときが二回ある。一回目は歯科医師国家試験に合格したときであり、大きな安堵感に包まれた。二回目が学位論文の予備審査、本審査に合格し、大学院の修了式において博士の学位記を受領したときだった。そのときには大きな充実感、達成感を味わった。みなさん方も同様の気持ちを感じたときが二回ある。

東京短大 学長 告辞

東京短期大学
学長 小口春久

今年例年になく寒い日が続いたが、春は確実に近づいている。自然の四季、春、夏、秋、冬は、毎年決まった時期に確実に時を刻んでやっていく。自然は必ず繰り返す。

しかし、君たちの人生の四季は過ぎ去れば、もう二度と戻ってくることはない。その時々には最善を尽くさなくてはならない。今日という日は君たちの残りの人生の最初の日だ。毎日毎日を大切に、有意義な人生を頑張る。



卒業生に告辞を述べる小口東京短大 学長



医療人としての心構えを誓う卒業生代表

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)



卒業生一人ひとりに学位記が手渡された



専攻科「歯科衛生学専攻」修了生 (新潟短大)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

新潟短大 学長 告辞

新潟短期大学
学長 柴崎浩一

この三年間にみなさんは驚くほど逞しく成長した。厳しい勉学に耐えながら身につけた医学や歯科医学の基礎知識、口腔保健衛生学などの専門知識、病院実習で学んだ最先端の治療法や高度な技術、さらには新潟病院で多くの患者さんとの関わりを通して得られた、いろいろな思いやりの気持ちなど、その一端をかいま見ることが出来る。

歯科衛生士の活躍の場は主として、開業の歯科医院だが、その他に保健所や高齢者福祉施設、障害者施設、病院歯科など、広い分野で活躍しており、今後ともその二つはますます高くなる。最近の予防歯科領域における進歩は目ざましく、全身疾患と歯科疾患との

果の学位に自信をもって、眼前にあるウナサカに向かい勇気をもって進んでいってほしい。さらにはその先にもウナサカが前途洋々と広がり、自分のめざす夢の住処を見いだすことができるに違いない。今後の活躍に期待するとともに、楽しみに見守っております。

(3月12日)

平成二十三年卒業生

大学院

第49回修了生

大学院生命歯学部研究科修了生十六名、新潟生命歯学部研究科修了生七名は次の通り。

(生命歯学部研究科)

- 歯周病学 加藤智崇
微生物学 渡邊公博
歯周病学 藤田佑三
生化学 橋本孝志
衛生学 青山いづみ
口腔外科学 米山勇哉
矯正学 鈴木章弘
矯正学 秦響子
生理学 井出良治
生理学 田中秀明
生理学 星合啓子
麻酔学 藤田恭平
麻酔学 山崎昌彦
解剖学I 牧野路生
病理学 杉本利昭
生化学 笹谷和伸

(新潟生命歯学部研究科)

硬組織粘膜炎比較形態学 前田信吾

機能性咬合治療学

本多利人

口腔材料開発工学 長谷川有紀

小児行動科学 松田貴絵

歯周機能治療学 多田和弘

顎口腔全身関連治療学 吉岡裕雄

顎口腔全身関連治療学 福島琢士

学位記授与者

論文提出による学位記

授与者三名は次の通り。
附属病院総合診療科 岡本浩美

新潟病院口腔外科 篠原治征

新潟病院小児歯科 本間裕章

(二一九九号まで)

大学

第101回卒業生

日本歯科大学第一〇一回卒業生(新潟生命歯学部)六十九名は次の通り。
新井敏和 飯野華絵
池田将英 伊藤綾美
伊平千明 岡部薫
尾崎直子 小野絵梨子
梶原良平 金子多衣

奥村元 小尾功
後藤喜平 齋藤祐太
馬場梓 高橋正寛
星野利明 岩井崇
茂木祥宏 (第一九七一号まで)

点景 昭和20年 焼け跡の附属病院



昭和二十年三月十日未明、米軍機は東京に焼夷弾十九万個を投下し、約百万人が罹災した。一夜での死傷者数約十二万五千人といわれる、この「東京大空襲」は都心部を焦土と化した。『日本歯科大学60周年誌』の年表では同日の条で「この爆撃により本校は、病棟、講堂、実習教室を全焼し、且つ鉄骨コンクリートの附属病院も多大な損害を蒙り、被害総九四〇坪に及べり」と記す。
本校に隣接する富士見国民学校(小学校)は、土台を残して全焼し、旧麹町区一帯も焼け野原となった。写真は富士見小学校側から撮影した本学旧附属病院で、飯田橋駅方面を臨む。(昭和五十三年発行の同小学校「百周年記念誌」より写真を転載)

岩切切一郎 上野卓海
大内一登 大久保正彦
大島理 大竹祐輔
大滝紘史 大西香愛
岡田大和 岡本京子
少原重樹 沖美里

淡路由 飯野圭郎
飯塚毅 飯川浩海
井川浩海 石井マユル
磯野侑美 市川雄大
岩切切一郎 上野卓海

塩谷翔太 庄司直記
新村真希 高田匡子
武内一広 竹内佑理那
武部祐理子 津島克哉

東城慶一 浅井桜子
宇野将史 小俣佑香
藤田譲治 原田史子

佐藤那奈 塩谷翔太
高田匡子 原田史子

高橋由利子 長谷川美緒
赤羽由美子 稲田諒
平野萌香 宮田愛子

小出勝典 小出勝典
須藤嵩文 須藤嵩文
吉井大貴 吉井大貴

白柏麻里 白柏麻里
深澤幹典 深澤幹典
野辺典 野辺典

久保田麻莉 久保田麻莉
長谷川美緒 長谷川美緒
稲田諒 稲田諒

清水美透 清水美透
松尾恭子 松尾恭子
菅原規江 菅原規江

中川裕徳 中川裕徳
萩原泉 萩原泉
酒井彩花 酒井彩花

宮本隆道 宮本隆道
平形智佳 平形智佳

マタニティ歯科外来
~命を育む女性の口腔保健のために~
倉谷ななえ・田村文誉 監修
B5判 166頁 定価3,990円(本体3,800円+税) わかば出版
妊産婦の歯科受診は十分とはいえない現状があります。これは患者側と歯科医療関係者側の情報の共有不足が原因かもしれません。本書は歯科大学で初めて「マタニティ歯科外来」を開設した日本歯科大学附属病院マタニティ歯科外来の先生方にご執筆いただき、より安心・安全な歯科治療を行えるようまとめたものです。また10年ぶりに改正された「母子健康手帳」についても、歯科に関連した事項をわかりやすく解説しています。

I.U.S.O.H ニューズレターを發行
International Union Of Schools Of Oral Health
I.U.S.O.H. NEWSLETTER No.20 December 2011
本学ではこのたび、ロニニューズレター第二十号を發行し、姉妹校ならびに関係各方面に配付した。

歯科医院
A CONSULTING MANUAL OF DENTAL CLINICS
コンサルティングマニュアル
本書はコンサルタント向けの内容ですが、院長が読んでも役に立つ情報が満載です。
第1章 歯科医院経営の現状と展望
第2章 歯科医院の開業支援
第3章 歯科医院の経営改善支援
第4章 歯科医院の人事管理と労務対策
第5章 歯科医院の事業承継